

欧米経済史2012

～「Gゼロ」後の世界に向けて

2012年10月9日

第2回 本講義の課題と視角—帝国と覇権

テキスト 第1章

「揺らぐ」アメリカの覇権

- 1991 ソ連崩壊（冷戦の終結）
- →アメリカ＝「唯一の超大国」へ（G1）
- 2001.9.11 アメリカ同時多発テロ
- →「対テロ戦争」アフガン・イラク戦争（泥沼化）
- 00年代：アメリカの景気低迷と新興国の台頭

現在の世界秩序をどうとらえるか？

- G1（アメリカ1極覇権）—過去の話
- G2（米中協調）—時期尚早
- G7（先進国協調）—過去の遺物
- G20（+新興国）—機能せず。

ポストGゼロのシナリオ

米中協調



パクス・アメリカーナの史的展開

基本年表①

- 1944 ブレトン・ウッズ協定
- 1958 欧州通貨交換性回復
- 1971 ニクソン・ショック
- 1985 プラザ合意

欧州政治レジームの概略

- 1519 スペイン王カルロス1世がカール5世として神聖ローマ帝国の冠を戴くーハプスブルグ家支配の絶頂
- 30年戦争→ウェストファリア条約 (1648) 「帝国の死亡証明書」
- フランス革命とナポレオン戦争→ウィーン会議(1814-15)
- 大国間の国際協調による平和 (勢力均衡)
- →植民地争奪戦争を経て、イギリス主導の国際協調の成立 (パクス・ブリタニカ)

第二次大戦起源論争の再評価

Pax-Britanica

ナチズム

宥和主義

「WWII=反ファッショ戦争」

Pax-Americana

ニューディール
孤立主義

第1章 本講義の課題と視角

- 課題—「帝国」と「覇権」
- 視角—グローバル・インバランス

アメリカは「帝国」か？

- イギリスの植民地から独立した過去→WWII後のイギリス・フランスの植民地主義への嫌悪感（スエズ危機）
- ベトナム戦争→社会主義国の「アメリカ帝国主義」批判
- イラク戦争後—「軽い帝国」イグナチエフ—「一時的な帝国による支配が正当化される。」

英帝国を説明する議論

- ①ホブソン・レーニン 『帝国主義論』
- ②ロビンソン＝ギャラハー 「自由貿易」 帝国主義
- 「公式」 帝国と 「非公式」 帝国
- ③ケイン＝ホプキンス 「ジェントルマン帝国主義」
- サービス・金融—帝国の 「原動力」

「覇権安定論」 国際政治経済学

- キンドルバーガー 『大不況下の世界』 (覇権の空位)
- ギルピナー 覇権国は国際的安全・開放的な自由貿易体制・安定的な国際通貨体制などの**国際公共財**の供給を保証

覇権安定論の構造

- 覇権国
- 大国 フリーライダー
- 挑戦国
- →覇権衰退論

「略奪的覇権国化」

- 覇権衰退論
- →責任分担論（バードン・シェアリング）
- 略奪的覇権国化—ex.基軸通貨国としての責任を疎かにした過程

本講義の視角—国際的経常収支不均衡 グローバル・インバランス

- 英主導の国際金本位制における不均衡
- 21世紀初頭の国際経済
- 米国—経常収支赤字
- 日本・中国等アジア諸国—経常収支黒字
- 「新ブレトン・ウッズ体制(Breton Woods II) 1]

今週のまとめと来週の課題

- 第2章 パクス＝ブリタニカの構造
- 覇権・帝国が維持すべき国際公共財（自由で多角的な通商・投資環境）が19世紀から20世紀にかけての世紀転換期においてイギリスを中心にしてどのように構築されたか？